

のぼりざか

文責 本渡東小学校校長 金子正樹



本渡東小 HPへ →

子どもの教育・しつけとは

今年も、のぼりざかを読んでいただき、ありがとうございました。「読んでいます。」と声をかけていただいたこともあり、励みになりました。基本的には、家庭教育のヒントになればいいなと書いたつもりですので、お説教がましく感じられたかも知れません。

さて、子どもの教育・指導・しつけにおいて、親や教師の「粘り強く」「継続した」指導は欠かせません。「一貫性」も必要です。そして、そこには、見本となる親や教師の姿が大切になります。

こんなコラムを見つけましたので紹介します。田村一二氏（社会的弱者に対して、生活・教育・福祉等に関する事業に取り組んでいるNPO団体の創設者）のコラムです。



私には6人の息子がいます。彼らがまだ小さいとき、彼らはどうしても履物をきちんとそろえられませんでした。叱ると、そのときはそろえますが、すぐに元に戻ってしまうのです。

それで、私が尊敬する糸賀一雄先生（戦後日本の障害者福祉を切り開いた第一人者として知られ、「社会福祉の父」とも呼ばれます）にお尋ねしました。

私「しつけとはどういうことですか」

糸賀先生「自覚者が、し続けることだ」

私「自覚者といえますと？」

糸賀先生「それは君じゃないか。君がやる必要があると認めているんだろう？それなら君がし続けることだ」

私「息子は？」

糸賀先生「放っておけばいい」

ということで、家内も自覚者の1人に引っ張り込みまして、実行しました。

実際にやってみると、親が履物をそろえ直している目の前で、息子がバンバン脱ぎ捨てて上がっていききました。「おのれ！」とも思いました。しかし、糸賀先生が放っておけとおっしゃったのですから、仕方ありません。

私は叱ることもできず、腹の中で、「くそつたれめ！」と思いながらも、自分の子どもであることを忘れて、履物をそろえ続けました。

すると不思議なことに、ひたすらそろえ続けているうちに、だんだん息子のことも意識の中から消えていって、そのうちに履物を並べるのが面白くなってきたのです。外出から帰ってきても、もう無意識のうちに、「さあ、きれいに並べてやるぞ」と楽しみにしている自分に気がきました。さらに続けていると、そういう心の動きさえも忘れてしまい、ただただ履物を並べるのが趣味というか、楽しみになってしまったのです。

それで、はっと気がついたら、なんと息子どもがちゃんと履物を並べて脱ぐようになっておりました。

孔子の言葉に、「これを楽しむ者に如かず」というのがありますが、私や家内が履物並べを楽しむ始めたとき、息子はちゃんとしてきたわけです。

ここに教育の大事なポイントの一つがあると思います。口先だけで人に、「こら、やらんかい」とやいやい言うだけでは、誰もついてきません。自分が楽しんでこそ、人もついてくるという教育が、私は履物並べから学んだ次第です。

教育とは、まねることから始まります。習字などは、手本通り書くことからスタートするので大変分かりやすいですが、スポーツも勉強も同じです。ボールの投げ方・蹴り方、作文の表現の仕方などあらゆる事は、まねることからスタートします。生活習慣や道徳的な行いも親や教師・兄弟など身近にいる人がお手本となります。子どもたちは、どうすることが良いのかはおおむね分かっていることが多いものです。あいさつすること靴を並べるのはいいことくらいはみんな分かっているのにできていないのです。

子どもさんにこうなって欲しいと思われたら何も言わず親が手本になってみるのもいいかもしれません。「粘り強く」が必要ではありますが・・・。

全てがこのように行く事はないのは分かっていますが、何かのヒントになればと思っています。



朝、交通指導で信号機のところに立っていたときの話です。

中学生の女の子（本渡東中の女の子です）が、「おはようございます」とやってきました。「おはようございます」とこちらもあいさつを返し様子を見ていました。

普段は、横断歩道を渡るために直ぐにボタンを押すのですが、押す気配がありません。そんなに長い時間ではなかったのですが、何か困っているのではないかと声をかけてみました。

「大丈夫です」と返してくれ、彼女は、やっと渡るためのボタンを押しました。

その時、彼女がボタンを押さなかった理由が分かりました。

車が多く横断歩道の信号を押すとたくさんの車を止めてしまうため、少し離れた中学生と一緒に渡ることと車を止めるのを1回で済まそうと考えたようです。

「えらいね」と言うと、彼女は、「私が待てばいいだけですから」と笑顔で横断歩道を渡っていきました。「ありがとう」と言いましたが、彼女に聞こえたか聞こえなかったか・・・。

でも、その子には「ありがとう」なんて必要ないのかなとも思って少し恥ずかしくなりました。



お礼

のぼりざか最終号となります。地域振興会の会長様、事務局の方、各区の区長様、学校だよりを全ご家庭に届けるためにご苦労いただき誠に有り難うございました。たくさんの枚数を選別されるのは大変だったかと思えます。

また、学校運営協議会の皆様、本渡東小子ども見守り隊の皆様、黄緑のジャケットを道路で見かけると有り難く頼もしく思っていました。有り難うございました。これからもどうぞよろしく申し上げます。

コロナ禍でも田植えや社会科見学などで様々なことを教えていただいた地域の皆様、有り難うございました。

コロナが、5類になるとまた学校の行事のやり方も変わってくると思いますので、また地域の皆様との交流が始まるのではないかと楽しみにしています。本渡東小として統合され、地域の皆様にとっては、母校という印象は薄くなっているかも知れませんが、学校はそうは考えていません。志柿、瀬戸、金焼、下浦の全ての方に母校と思っていただきたいと思っています。そして可愛がっていただければ有り難いです。

令和5年度もどうぞよろしく申し上げます。